

---

# 『天国と地獄』

リスト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『天国と地獄』

### 【Nコード】

N8912P

### 【作者名】

リスト

### 【あらすじ】

幸福と不幸。

あなたは今、幸せですか？

## 『天国』

【拝啓

ありがた  
在坂 希一様

このたびは当選おめでとうございます。

貴方様にはこれから一ヶ月間、『天国』がプレゼントされます。

その後、三日間だけ『地獄』がありますが大したことはありませんのでご了承を。

そろそろ迎えの者が参りますので、何とぞよろしく願います。

敬具】

という手紙が在坂の家宛に送られてきた。

希一はごくごく普通の独身サラリーマンであり、こんなものに応募する余裕などない。

訳も分からず、ただただ高級リムジンに乗るだけだった。

希一が向かった先はお城みたいな立派な家。

そこはさながら西洋のようで、レンガ造りの4階建て、セントラルのシャンデリアに驚きつつ、テレビでしか見たことのないような長テーブル、著名な画家の作品の数々、銀食器、そして豪華な食事。

至れり尽くせりとはまさにこのことだろう。

西洋の貴族はこんな生活をしているのだろうかと思いつつ、その夜は眠りについた。

次の日には希一はもうすでに貴族だった。

毎日遊びほつけ、日本だけでは飽きたらず、世界各国を旅した。

そんなことをしている間に、あっという間に約束の一ヶ月が来てしまった。

このとき希一はこの生活が身に染みてしまったのか、このままでいたいとうなっていたが、「約束ですから」と言われ、しぶしぶ了解をした。

これから恐怖の三日間が始まることも知らずに …

『地獄・1』

「……………ん」

希一は深い眠りに落ちていた。

「……………ん？ここは？」

重い瞼を開けてみたが、そこは真っ暗だった。どうやら希一意外には何も無いらしい。

「おーい、誰か」

呼び掛けに答える者は誰一人おらず、希一は暗闇を探索することにした。

「……………何にもないな」

歩いても歩いても、ぶつかるとは配らない。ここは部屋ですらないらしい。

「これが地獄の三日間ってやつなのか？」

とても暗い場所。どこかしら日本ではないような気がする。

「時間すらわかんねえな」

あいにく腕時計を着けるのを忘れてしまったらしい。サラリーマンである希一は腕時計をいつも着けているはずだが。そのとき希一は

気付いた。

「…………！？俺、服着てないのか！？」

希一は自分が全裸なことにやっと気付いた。しかし寒くはない。そしてここはどこなんだと改めて思う。

「何なんだよ…………」

地獄だとしてもたった三日。

それさえ乗り越えれば普段の生活に戻る。

「贅沢な暮らしは良かったなあ」

希一は一ヶ月前のことを思い出していた。

「また当選しないかなあ」

そんなことを思い、希一は横になった。

地面の感触は何だかあいまいなものだった。

床なのか、はたまた土なのか。

「砂………… つてもっとサラサラしてるよな」

そんなことを口にしてまた眠りについてしまった。

傲慢な暮らしの疲れがここできたのだろう。

時間は分からないが、かなり寝ていた。

「……………」

また希一は重い瞼を開けた。

真っ暗だ。

何もない。

急に希一は怖くなった。

「帰れるのか……………」

焦った希一は叫んだ。

「おい！誰かいないのか〜！」

返事はなし。

部屋の中なら反響してもいいのに、それすらもない。

それから希一は走り出した。

「そつえば飯はどうするんだっ？」

止まった希一は気付いてしまった。

自分がどれほど過酷な状況下に居るかを。

『地獄・2』

あれから何分たった？

いや、何時間？

何十時間？

希一はまだ歩いていていた。

「何なんだよっ！」

イラついて足で地面を蹴る。

靴も履いてないのに。

しかしそこで気付いた。

「……………やっぱり……………砂？」

希一は地面がどんなものか分かった。

とてもやわらかい「砂」だった。

なぜさつき気付かなかったのか不思議なくらいだった。

「ってことは砂漠？いや、暑いよな……………」

どこののかと思考を張り巡らせる。

「砂、砂……………この砂サラサラし過ぎっ？」

砂のようで砂ではないような。

何とも表現しにくいものだった。

考えていても仕方なかったので、希一は再び歩き出した。

「……………」

やはり何も無い。

真っ暗で砂があるだけ。

何も見えない。

「一日くらいたったかな……………」

希一は止まり、横になった。

しかし眠りにはつけない。

「……………トイレはここでしていいのか？」

聞いてみても仕方ないので、その場ですることにした。

そして再び歩き出した。

「……………何だか怖いな……………」

誰もいない。

いつもなら東京で嫌というほど人間を見ているはずなのに。  
居なくなったらこんなに寂しいものなのか。

「居なくなったら……………？」

希一は恐ろしいことを想像してしまった。

「……人類が滅びたわけじゃないよな？」

ありえない。

たった一日で人間が滅びるなど。

しかし、今の希一はそんなことも本気に思えてしまつくらい追い込まれていた。

「うそだろ？俺が生き残りなわけじゃないよな？」

返事はない。

「誰かいないのか！！本当は居るんだろ！？」

返事はない。

「何なんだよおお！！」

怒りに身を任せた希一の声は、誰にも届かなかった。

『地獄・3』

グウ。

希一の腹が鳴った。

「腹減ったな……その前にトイレ」

トイレを済ませた希一は食べ物を捜した。  
手で辺りを探ってみるが何も無い。

あるのは「砂」だけ。

「……………食べれるかな」

希一は「砂」を手を取った。

そしてー

「……………うわっ、マズッ！」

ジャリジャリした歯触りが口に残る。  
とても食べれたものじゃなかった。

「無理か……………」

食べ物を調達しようと再び歩く。  
しかし何も無い。

「冷たっ」

足に水のような感触が。

「み、水かつ!?!」

手で地面を触る。

しかし水ではなかった。

「……………さっきの小便?」

おかしい。

たしかに真っ直ぐ歩いていたはずなのに。

「平衡感覚が無くなって…?」

寒気がした。

今まで希一はいろんな恐怖体験をした。

幽霊に会っただとか、車で崖の上から落ちそうになっただとか。

そんなものをもろともしないほど、今、怖い。

怖い。

「俺が……………壊れる…?」

ゾツとした。

希一は闇に向かって走り出した。

「何なんだっ！？俺に恨みでもあんのかよっ！……！」

希一は歩みを止めない。

止めてしまったら自分が自分ではなくなってしまう気がしたからだ。

「……………はぁはぁ……………助けてくれ……………」

希一は闇と共に消えた。







そして「彼」は死んだ。

## 『天国と地獄』

「実験はどうだ？」

黒スーツの男がそう言った。

「たった今、終了しました」

部下らしき人がモニターを見ながら言う。

「そうか……人格は保てたか？」

「いえ……やはり無理のようです」

「残念だな……」

研究室。

ここでは人間を愚弄する研究が日々行われている。

この研究所で新たなる人体実験が行われた。

【人間は三日間暗闇に居るとどうなるか】

実験は成功だった。

いや、この場合は成功も失敗もないのだろう。

「彼」は死んだ。

最後、自分を壊して。

人間はこつも簡単に死ぬのだ。

こつも簡単に自分を嘲るのだ。

こつも簡単に心を壊すのだ。

こつも簡単に生きているのだ。

今、あなたは幸せだろうか？

幸福というものを感じているだろうか？

感じているならそれを忘れないで欲しい。

「彼」のように。

死にたいなど思つのは愚考だ。

その考え方ほど無意味なものはない。

自分は不幸と感じるなら、幸福を求めればいい。

いつかこれを読んだあなたに幸せが訪れんことを祈っている。

それともし、身に覚えがない当選ハガキが来たら、拒否するといひ  
だろつ。

まだ天国と地獄を見るには早すぎる。

あなたにはまだ生きる権利があるのだから。

『天国と地獄』（後書き）

これは昔書いた作品です。

支離滅裂、意味不明ですいません。

風邪を引いて意識が朦朧となる中、

気づいたらケータイの画面にこの作品ができあがっていました。

どういう経緯で書いたのはいまだ不明です。

そんな作品です。

読んでいただきありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8912p/>

---

『天国と地獄』

2011年1月3日04時57分発行